

3. . . . not . . . until では遅すぎる

突然に思いがけないことが起きて初めて、そのわけを知ることは珍しくないと思います。つまり、これまでに想定外のことを経験するわけですが、大規模な自然災害もその一つであると思います。まさか、自分が暮らしているところで、こんな大きな災害が起こるとは夢にも思っていなかったという言葉はよく耳にすることです。

何かが起きればそこには、何かの理由があるはずで、それは素因や誘因といった原因でもあり、起因でもありますし、そうなる近因や遠因というものがあるはずで、1995年阪神淡路大震災の時には、被害を受けたこの地域のほとんどの人が地震などには縁がない地域と思っていたといえます。しかし、専門家の中で活断層の存在と危険性について前から指摘されていたといえますし、伝えていたのに対応してこなかったというようなことがありました。どちらにしても、大規模な災害が発生してはじめてみる光景が多かったものと思います。これには、専門家のアウトリーチが不足していたとか、行政の危機感がなかったとか、住民への関心がほとんどなく地震への関心が他人事だったとかさまざまなことが言われました。一喜一憂しないことは大変大事なことです、ある意味で達観しているようで、実は無視しているということにもなるわけで、具体的な対応は別にしても、自然災害への関心は国民共通の意識でなければならないということだと思えます。

自然災害は突発的で、思いがけないことが起きることはわかっている、どのような被害が発生するのかは予想できないこと、起きればとんでもないような損害が発生することになります。かといって、起きた時は起きた時、今まで何とかしてきたということだけでは不安です。というのは、社会の構造が変化していて、インフラをはじめとする財産の集積が進んでいるために、どこかで不具合が発生すると広く拡大するというようなことがあります。そうすると、すぐには復旧や復興はできないことになるし、財政的なことも関係してくるわけで、国内の政情の悪化という事態にも及ぶことになります。このような想定外のことへの対応の重要性は当然ながら、災害対応の基本パターンを身に付けておくことが必要不可欠なことを示しています。まずは、日本が災害列島であることを認識し、自然災害への関心を高めておくこと、自分や地域における災害のリスクを理解し合って備えることです。そして、暮らし方を見直して環境への負荷を考えていく方策を実践する、非居住エリアを明確にして土地利用の在り方や自然環境の機能維持のために投資する政策を支持することなどが求められているのだと思えます。

I did not find out about many mistakes until many years afterward.